



PROJECT

種子島出身の大学生×島内の高校生

2024年度、LUSHチャリティバンク助成金を活用し、環境教育プログラムを開発しました。本プログラムには、のらねこから大学生18名と種子島高校の有志6名、計24名が参加。種子島のビーチ「美浜」をフィールドに、環境保全への理解を深めました。通常はオンラインで活動し、長期休暇には種子島出身の大学生が帰省。現地でビーチクリーンや漂着ごみ調査などのフィールドワークを実施しました。ワークショップでは、具体的な海洋環境保全のアイデアを発案しながら、種子島の若者同士が学び合う関係性を築くことができました。



PICKUP

美浜を舞台に！ 学年を超えて学びあう！

2025年3月2日には、西之表市民会館にてワークショップ、美浜海岸にてビーチクリーン、漂着ごみ調査を実施しました！当日は16名がワークショップに参加したほか、研究で来島中の鹿児島大学の学生なども見学に訪れました。種子島の海の豊かさを考える場面では、学年や選考を超えて活発な意見交換が行われました！



種子島出身 高校1年 福永 梨乃さん

種子島生まれの私は地元の良さを即答できませんでしたが、海浜活動への参加を通じて魅力を再発見しました。島外の大学生と意見交換を重ねる中で学びを深め、さらに地域の魅力や人々の営みに触れたいと感じるようになりました。



種子島出身 大学2年 松田 明日羽さん

実際にゴミ拾いを行い、海洋ゴミの現状を肌で感じることができました。それまで主に情報をインプットすることが多かったですが、このような活動を通じて実践することで、環境への意識がさらに高まったと実感しました。



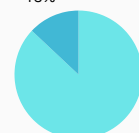
ANALYSIS

参加者へのアンケート結果

本環境教育プログラムの参加者の87%が「環境への関心が高まった」と回答し、13%も「そう思う」と評価しました。また、今後のプログラム参加意向については、80%が「とてもそう思う」、13%が「そう思う」と回答し、全体として高い関心が示されました。(n=16)

Qプログラムを通して環境への関心が高まったと感じますか？

そう思う
13%



とてもそう思う
87%

87%

環境への関心がとても高まったと回答！

SUMMARY

環境課題という人類共通のテーマを中心に据えて

のらねこでは、発足以来コミュニティ形成の場として「海」を大切にしてきました。その目的は、たとえ今後島内の人口が減少しても、島に向けた「知」を維持し、発生する課題に対応できる基盤を築くことにあります。今回のプログラムでは、その重要性を改めて認識するとともに、環境課題への関心を高める場を創出しました。今後も「環境」を軸に据え、持続可能な活動を展開していきます。